

作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

剣岳——人だけの山——

剣岳(右端三ノ窓雪渓、左端平蔵雪渓)(鹿島槍から)



時々、無性に一人で山にこもりたくなる。去る年の 9 月もそんな思いで、一人で北アルプス剣岳(2998 呎)に出かけた。剣岳は、小生が子供の頃から眺め育った故郷の山である。

室堂から別山乗越を越えて剣沢を下り、真砂沢出合にテントを張った。若い頃、ここを拠点にあちこちの岩を登りまくった思い出の地ではあるが、夏山シーズンを過ぎた今は人一人いない。年寄りの単独登山でもあり、流石に岩は敬遠して、三ノ窓雪渓を登り、平蔵雪渓を下降しようという計画である。

夜半テントに雨のパラつく音がしたが、翌朝は快晴。真砂沢から二股までは草深い道が 1 時間。朝露に雨衣ズボンがグッショリ濡れた。二股でアイゼン・ピッケルに身を固め、三ノ窓雪渓を登り始める。

夏と異なり、雪渓はすっかり痩せて所々クレパスになっている。スノウブリッジを這って渡ったり、シュルンドを降り登りしたり、結構緊張の連続である。二股から 3

山頂風景(夏)



時間でやっと三ノ窓のコルにたどりついた。コッペパン、ソーセージ、ドライフルーツの昼食の後、

長次郎雪渓の頭を越えて主稜線の岩稜を慎重にたどり、剣岳本峰頂上まで更に 1 時間半を要した。

誰一人いない山頂は、風もなく日差しが暖かいが全くのガスの中である。岩の上に寝そべって、ゆっくり 30 分の昼寝休憩。

下りは、カニノヨコバイなどの險路を楽しみながら、一般登山路を平蔵ノコルまで下り、明るい日差しの中、平蔵雪渓をグリセードで下った。見上げると一般登山路の人達が手を振ってくれる。快適に飛ばすと言いたいところ



だが、あちこちにクレパスが出ていて、その度にトラバースしてガレ場を巻く。頂上から 2 時間半でテント場着。

夕食は、登頂成功を祝って豪華に。アルファ米に、乾燥野菜と乾燥鶏肉をふんだんに使った雑炊。

ニラをたっぷり刻み込む。副食は真空パックのローストチキンを温めて。

ウィスキーをチョップリ垂らしての食後の紅茶の一時に、山あいの空の夕映えが美しかった。



グリセード(夏)

